

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 29, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun. 2023



カエントケ

Trichoderma cornu-damae (Pat.)
Z.X. Zhu & W.Y. Zhuang

KPM-NC 29465

神奈川県小田原市入生田

2022年7月20日 折原貴道 撮影

おりはら たかみち
折原 貴道 (学芸員)

その名の通り、林床からまるで炎が立ち上るような姿と色合いのきのこです。本種は元来、神奈川県周辺ではやや稀でしたが、ここ数年、ナラ枯れ*と呼ばれる樹病の拡大にともない、各地で頻繁に発生が確認されるようになりました。この写真のきのこも、ナラ枯れによって枯死したスタジイの樹下から発生したものです。しかし、なぜナラ枯れが広がるとカエントケが多く発生するのか、その詳しいメカニズムは判っていません。

見た目に違わず、本種はきのこ類の中でも有数の猛毒をもち、ほんの少し口に

ただけでも致命的です。皮膚浸透性のある毒成分が含まれることでも有名ですが、実際には素手で少し触れる程度で中毒することはありません。その点は他の毒きのこと同様です。また、カエントケが発生すること自体は、環境へ特に悪影響を及ぼしません。過度に警戒しすぎず、科学的知識をもって「正しく恐れる」ことが重要です。

*ナラ枯れ: カシノナガキクイムシという甲虫が媒介する、ナラ菌と呼ばれる菌類がブナ科樹木(ドングリの生る木の仲間)の内部に侵入し、感染木が急激に枯死する病害。